

佐藤しなさん 満100歳顕彰式

村ではこのほど、12月20日で満100歳の誕生日を迎えられた佐藤しなさんを東通村百歳祝金支給条例に基づき顕彰しました。

平成6年の条例制定以来、村では24人目の顕彰となります。

佐藤さんが入所している特別養護老人ホーム「能舞の里」で行われた顕彰式では、ご親族の方々が見守る中、越善靖夫村長から「どうかいつまでもお元気で、明るく、楽しく過ごされ、長寿でいられますように」とお祝いの言葉とともに、長寿を称える顕彰状と百歳祝金が贈られました。

しなさんは、大正7年12月20日に白糠に生まれ、現在は村内の特別養護老人ホームに入所されております。長生きの秘訣は「生ものは必ず火を通してから食べる」と語り、風邪もひかず丈夫な身体を維持できているそうです。

今回の顕彰に際し、お祝いに駆け付けたご親族や施設の皆さんの祝福を受け、日頃お世話になっている施設スタッフへの感謝の言葉を笑顔で語られておりました。百歳のご長寿、おめでとうございませう。



顕彰状授与の様子



施設スタッフから花束贈呈

「東通天然ヒラメ刺身重」のクッキング体験！

東通小4年生56人が10月29日、村保健福祉センターで、「東通天然ヒラメ刺身重」の調理を体験しました。この取り組みは、「児童が村について知る教育課程「東通科」の一環で、村の食をテーマに学習し、オリジナルの「東通御膳」づくりを目標としています。その取組みに協力しようと、ヒラメ重を開発した「東通ヒラメ料理推進協議会」がクッキング体験教室を催し、南川直樹会長が、ヒラメの捌き方やヒラメ重の盛付を実演しました。南川会長は「見た目がきれいになるように材料を選び、皿とかに入れる順番を工夫します」などのアドバイスをし、その後、児童はヒラメ重を参考に刺身とサラダパフェをそれぞれ盛付しました。刺身にそれぞれドレッシングをかけたり、様々な野菜を刺身に巻いたり、彩りを意識してとてもカラフルにサラダパフェを盛り付けたりして、アイデア満載の盛付が出来上がりました。参加した児童は「見た目を大事に盛ることが大事だ」と話していました。



南川会長によるヒラメの捌き方等を実演

東通小児童が東通村の大地（ジオ）からなる食の魅力を発表！

12月1日下北ジオパーク推進協議会が主催する「第2回下北ジオパーク学習・活動発表会」が開催されました。これは、ジオパークの活動に求められる「保護・保全」「教育・研究」「地域振興（観光・商品開発など）」の3本柱に対して、下北地域の各学校で行われている、様々な地域学習・総合学習の成果や、地域団体による活動についての発表会であり、学習発表は、郡内の小学校や高等学校等の7団体が行い、当村からは、東通小4年生が昨年度に引き続き参加しました。昨年度に学んだ東通村の自然・景観を基に、今年はそれらが育む、豊富な東通村の食について学習しました。児童たちは村内で開催されている「9の日」の鮮魚・野菜・東通牛の販売所や尻労漁港で天然ヒラメなどの荷揚げ風景や神経締めを見学しました。中でも、村内の食材をふんだんに使用して開発した「東通天然ヒラメ刺身重」について、関係者から開発経緯やメニューづくりについての授業を受けて料理などのノウハウを学び、そして、4年生オリジナルの「東通御膳」を完成させ、その取組みについて、イラストや写真で紹介しながら、児童が実際に解説しました。児童一人一人がはつきりと分かり易く、元気に発表する姿は、小学生らしくもしっかりとっていて、来場者に高評価で、東通御膳の内容も村の食材をたくさん取り入れて見た目も良く、食べたくなる美味しそうな膳に仕上がっていました。会場にはその取組みの内容が分かるパネル展示コーナーもあり、来場者は発表とパネルをみてそれぞれの団体の取組みに感心していました。



食の魅力を発表する東通小4年生



4年生が考案した「東通御膳」